

ハヤブサ（ハヤブサ科） 全長 オス38センチ・メス51センチ

絶滅危惧種と特殊鳥類に指定されるハヤブサの雛が、元気に巣立ちました。

繁殖地は主に海岸の断崖であるが、数少ない内陸部での繁殖地が大仙市に2か所もあることは、あまり知られていません。中仙地域で産卵、孵化した2羽の雛を、巣立ちまでの約1か月間にわたり成長していく様子を眺めることが出来ました。



岩山から颯爽と飛び立つ（成鳥）。 カッコいい。

産卵場所は切り立った断崖で、V字形の割れ目の裏側であることから、とても地上からは巣の内部を窺うことは出来ません。

そのため、親鳥が餌を運んできた時の状況をつぶさに観察し、雛が産まれているのかを想像するしかありませんでした。

そして2週間ほど経ったころ、岩の割れ目の上から雛の白い頭の一部がチラチラと見え、無事に育っていたのです。



岩陰からやっと姿を見せてくれた、2羽のヒナ。



右の雛はまだ背中に綿毛（めんもう）が残っていることから、第2子です。

その後の雛は目に見えて逞しく育ち、ついに岩の端っこに姿を見せてくれました。

親が運んできた餌は、引きちぎってから口移しで雛に与えます。餌を全て食べ終わってからも、もっと食べたいと催促です。



左のヒナはまだ食い足りないのか、親の脚を掴んで離しません。



今にも飛び出しそうな勢いで羽ばたきの練習中。

ここで雛は親の脚を掴んで、まだ食べたいの〜、と離そうとしません。可愛い雛のために、親は再び狩りに飛び出していきました。なんとなく人間にも通ずる、親子の愛情が感じられる一コマでした。



親からもらった餌に食らいつく。



ついに2羽が並んで上空を飛び交った。



2羽とも精悍な顔つきになってきました。